

令和元年度

小中学校保護者及び教員の教育に関する意識調査

結果概要版

この調査は、浦安市の小中学生の保護者及び教員が、現在の子どもたちの実態、教育における学校や家庭の役割、家庭における子どもとの関わりをどのように捉えているのか、さらに、浦安市の教育にどのようなことを期待しているのかなどを把握し、分析することを通して、本市教育の充実に資することを目的に実施したものです。

この結果概要版は、その中から主な結果を取り上げてまとめたものです。

●調査対象者及び調査期間●

- <調査対象者> 保護者：市立全小学校2・5年生と市立全中学校2年生の抽出学級の保護者
教員：市立全小中学校の教員全員
<調査期間> 令和元年6月17日～6月28日

●回答者数●

- <保護者> 小学校2年生：446人、小学校5年生：510人、学年未回答：19人、合計：975人
中学校2年生：255人、学年未回答：11人、合計：266人
合計：1,241人
<教員> 小学校：408人、中学校：220人、合計：628人

●調査項目●

保護者と子どもの関係、保護者の学校・地域との関わり、
子どもの携帯電話やスマートフォン（インターネット）の利用、
子どもの放課後・休日の過ごし方
浦安市の教育施策、浦安市の学校教育 等



1 保護者と子どもの関係

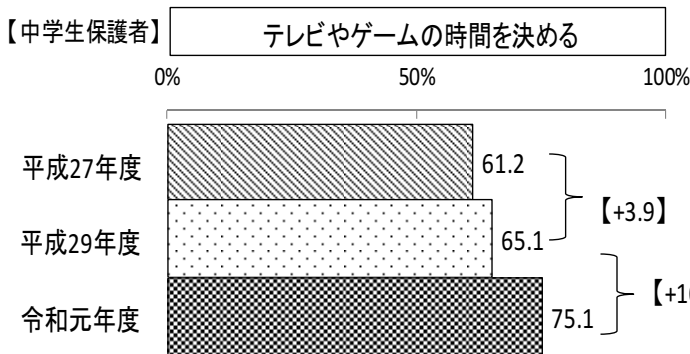
(1) 子どもに対する接し方、しつけの仕方で心がけていること

保護者が心がけている項目は、上位3項目までが小中学生とも共通の項目となった。
中学生保護者において「テレビやゲームの時間を決める」の割合が年々増加している。

表1-1 「心がけている」(「とても」+「まあ」) 上位5項目 (小中学生保護者)

| 項目 | 小学生保護者 | 項目 | 中学生保護者 |
|-----------------|--------|-----------------|--------|
| 悪いことはきちんと叱る | 99.1 | 悪いことはきちんと叱る | 99.6 |
| 子どもに毎日、朝食を食べさせる | 98.7 | 子どもに毎日、朝食を食べさせる | 97.0 |
| 子どもの努力をほめる | 97.7 | 子どもの努力をほめる | 97.0 |
| 規則正しい生活習慣をつける | 96.4 | 学校での出来事について聞く | 93.2 |
| 気持ちのよいあいさつをさせる | 95.6 | 規則正しい生活習慣をつける | 92.1 |

グラフ1-2 経年による「心がけている」の割合の増減幅が特に大きいもの (中学生保護者)



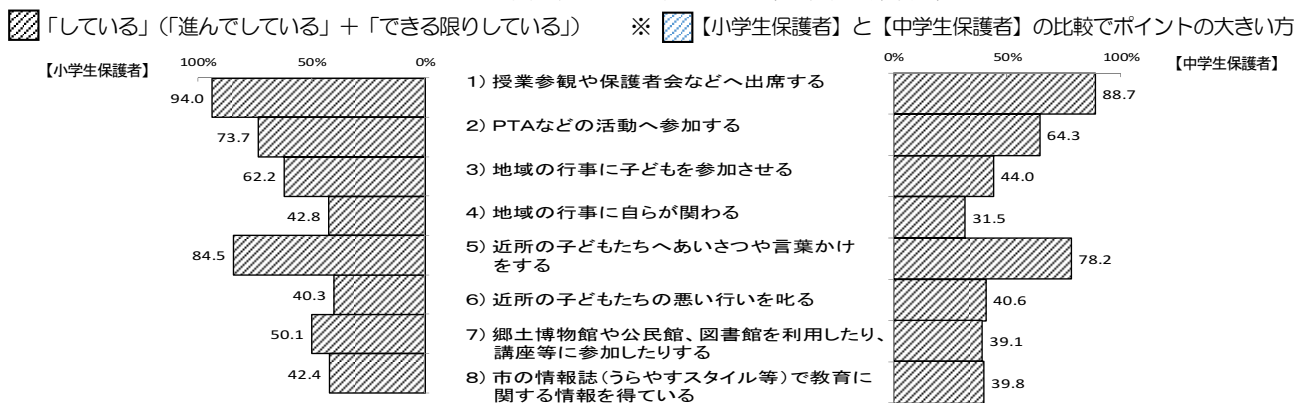
中学生保護者における「テレビやゲームの時間を決める」の割合が年々増加し、今年度は75.1%となり、平成29年度調査の65.1%から10.0ポイントと大きく増加しました。なお、小学生保護者では経年による大きな差は見られませんでした。

2 保護者の学校・地域との関わり

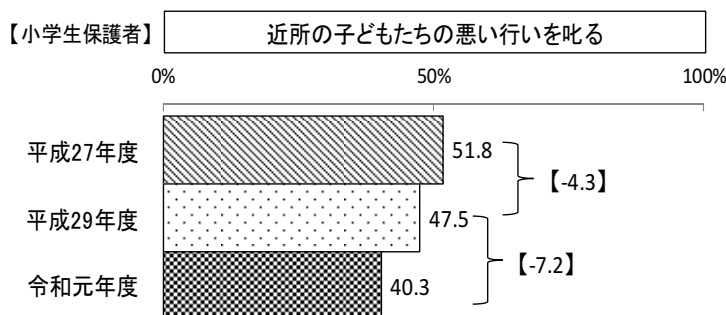
(1) 学校や地域との関わり方でしていること

学校や地域との関わりは小学生保護者の方が積極的。(8項目中7項目が中学生を上回る。)
小学生保護者において「近所の子どもたちの悪い行いを叱る」の割合が年々減少している。

グラフ2-1 学校や地域との関わり方 (小中学生保護者)



グラフ2-2 経年による「している」の割合の増減幅が特に大きいもの (小学生保護者)



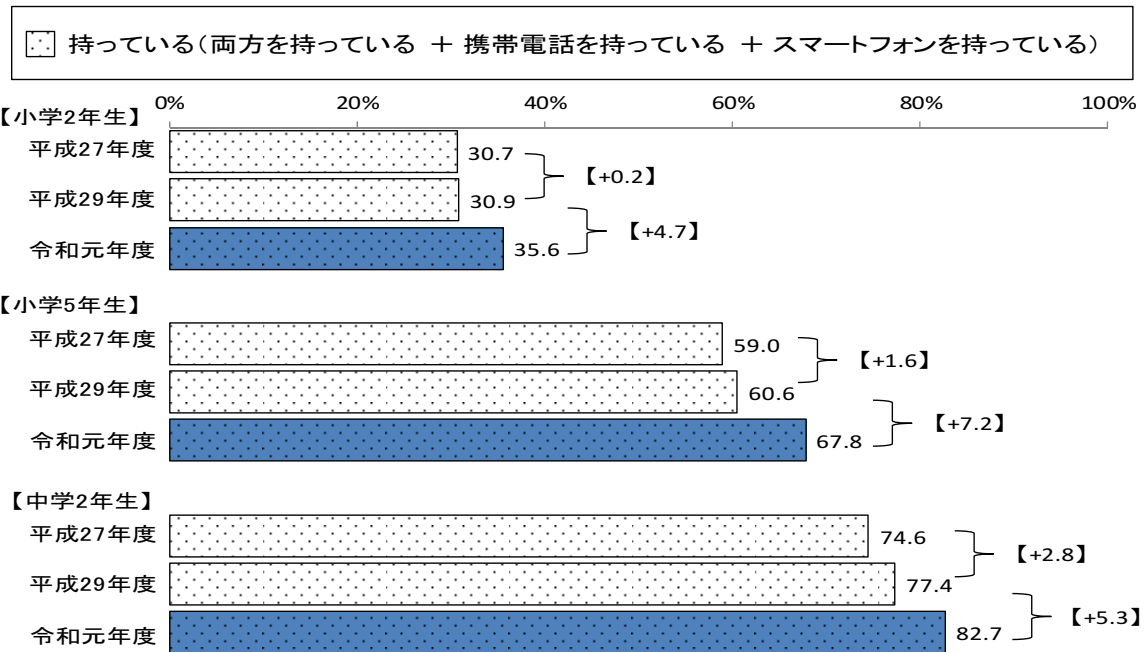
小学生保護者における「近所の子どもたちの悪い行いを叱る」の割合が年々減少し、今年度は40.3%となり、平成29年度調査の47.5%から7.2ポイントと減少しています。さらに、平成27年度調査と比較では、11.5ポイントと大きく減少しています。

3 子どもの携帯電話やスマートフォン（インターネット）の利用

(1) 子どもの携帯電話やスマートフォンの所有率

小中学生ともに携帯電話やスマートフォンの所有率が増加傾向となっている。

グラフ3-1 子どもの携帯電話やスマートフォンの所有率（小中学生保護者）

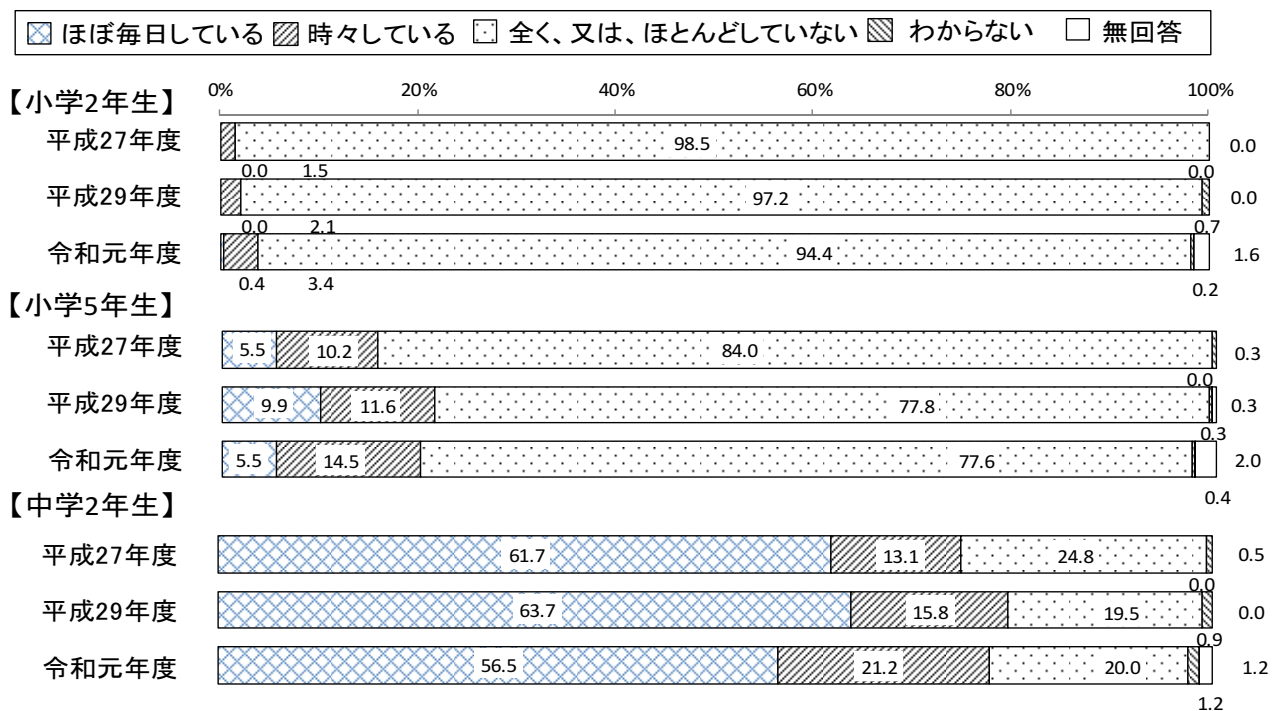


平成29年度調査と比較すると、小学2年生は4.7ポイント、小学5年生は7.2ポイント、中学2年生で5.3ポイント増加しています。

(2) SNS（Facebook やLINE、Twitter 等）の利用率

SNSの利用率は学年が上がるにつれ増加している。しかし各学年とも経年による変化は見られない。

グラフ3-2 SNSの利用率（小中学生保護者）



子どもの携帯電話やスマートフォンでのSNSの利用率（「ほぼ毎日している」+「時々している」）は、学年が上がるにつれて増加し、特に最も利用率の高い中学2年生では77.7%となっています。

平成29年度調査と比較すると、すべての学年で差が2.0ポイント以内でほぼ横ばいとなっています。

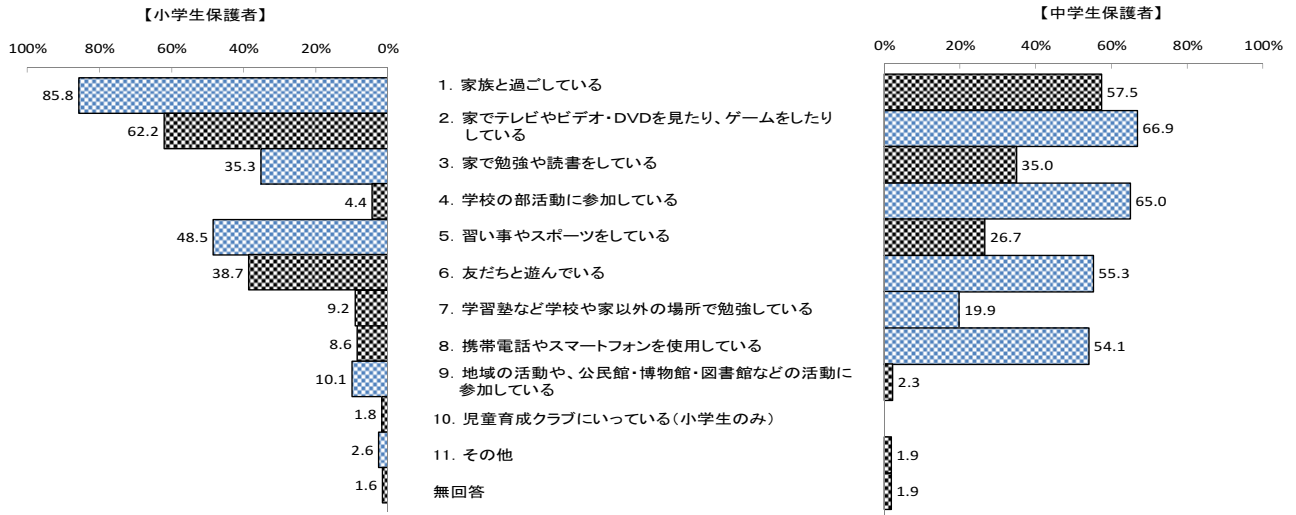
4 子どもの休日の過ごし方

(1) 子どもの休日の過ごし方

小学生は「家族と過ごしている」割合が非常に高く、中学生は「テレビやビデオを見ている」、「スマートフォンを使用している」割合や、「部活動に参加している」割合が高い。

グラフ4-1 子どもの休日の過ごし方（小中学生保護者）

【小学生保護者】と【中学生保護者】の比較でポイントの大きい方



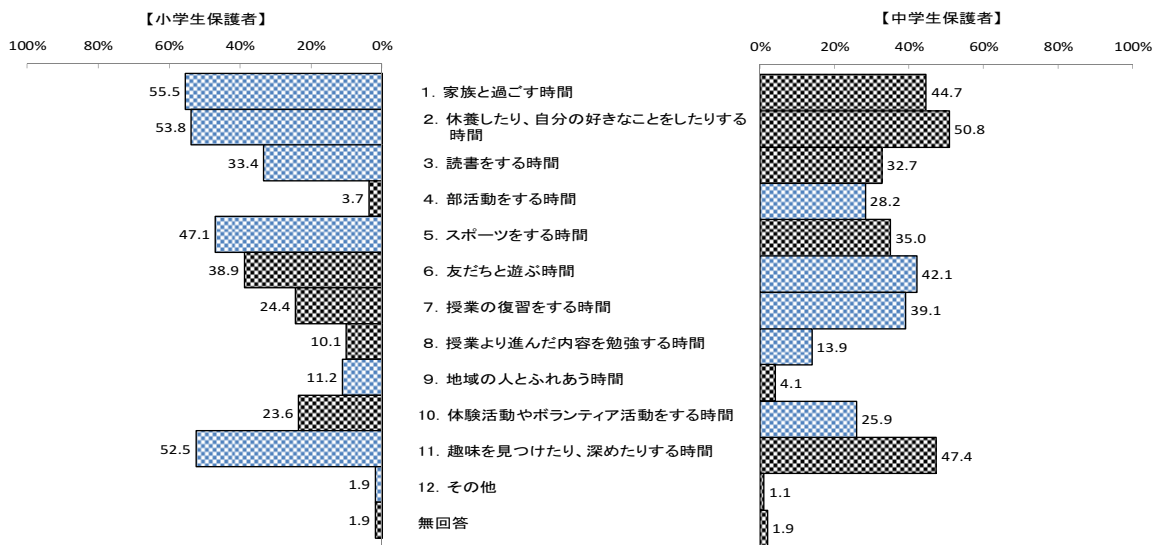
小学生保護者は「家族と過ごしている」と「習い事やスポーツをしている」の2項目が中学生保護者より20ポイント以上高く、一方、中学生保護者は「学校の部活動に参加している」と「携帯電話やスマートフォンを使用している」の2項目が小学生保護者より45ポイント以上高いという結果でした。小学生と中学生では休日の過ごし方がやや異なっています。

(2) 子どもの休日を充実させるための時間の使い方

小学生保護者はスポーツや家族との時間、中学生保護者は部活動や学習の時間を重要視している。

グラフ4-2 子どもの休日を充実させるための時間の使い方（小中学生保護者）

【小学生保護者】と【中学生保護者】の比較でポイントの大きい方



小学生保護者は「スポーツをする時間」と「家族と過ごす時間」の2項目が中学生保護者より10ポイント以上高く、一方中学生保護者は「部活動をする時間」と「授業の復習をする時間」の2項目が小学生保護者より10ポイント以上高いという結果でした。また、中学生保護者は、「授業より進んだ内容を勉強する時間」も小学生保護者を3.8ポイント上回り、学習の時間を重要視していることがうかがえます。

5 浦安市の教育施策

(1) 今後の学校教育の取組に対する必要度

小中学生の保護者は、「外国語教育の充実」等、4項目が共通して必要であると感じている。
 小中学校の教員は、「教職員の事務軽減化による児童生徒と向き合う時間の確保」が共通して必要であると感じている。

表5-1 「とても必要である」上位5項目（小中学生保護者）

| 項目 | 小学生保護者 | 項目 | 中学生保護者 |
|--------------------------------|--------|--------------------------------|--------|
| 外国語教育の充実 | 70.6 | 外国語教育の充実 | 68.8 |
| いじめ・不登校を予防し解消するための、児童生徒への支援の充実 | 68.7 | いじめ・不登校を予防し解消するための、児童生徒への支援の充実 | 61.7 |
| 教職員の資質や指導力の向上 | 60.8 | 教職員の資質や指導力の向上 | 51.5 |
| 情報モラルやコンピュータ活用など情報教育の推進 | 59.6 | 情報モラルやコンピュータ活用など情報教育の推進 | 50.8 |
| 教職員の事務軽減化による、児童生徒と向き合う時間の確保 | 59.6 | 防災教育の推進 | 49.2 |

小中学生の保護者が「とても必要である」と回答とした割合が最も高いのは、ともに「外国語教育の充実」で、同項目を含めた上位4項目が共通した項目でした。また、その4項目における割合の差はどれも10ポイント以内であり、保護者間の大きな差は見られませんでした。

表5-2 「とても必要である」上位5項目（小中学校教員）

| 項目 | 小学校教員 | 項目 | 中学校教員 |
|--------------------------------|-------|--------------------------------|-------|
| 教職員の事務軽減化による、児童生徒と向き合う時間の確保 | 82.4 | 教職員の事務軽減化による、児童生徒と向き合う時間の確保 | 72.3 |
| 一人一人に応じたきめ細かい授業や少人数教育の推進 | 67.4 | いじめ・不登校を予防し解消するための、児童生徒への支援の充実 | 59.5 |
| いじめ・不登校を予防し解消するための、児童生徒への支援の充実 | 65.2 | 家庭の教育力の向上支援 | 59.1 |
| 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進 | 62.3 | 教職員の資質や指導力の向上 | 56.8 |
| 教職員の資質や指導力の向上 | 61.0 | 教育活動を通じた豊かな人間関係づくりの充実 | 52.7 |

小中学校の教員が「とても必要である」と回答とした割合が最も高い項目は、ともに「教職員の事務軽減化による、児童生徒と向き合う時間の確保」で、同項目を含めた3項目が共通した項目となっています。また、その3項目のうち「教職員の事務軽減化による、児童生徒と向き合う時間の確保」の割合の差は10.1ポイントでした。その他2項目では割合の差が10.0ポイント以内となっており、教員間の大きな差は見られませんでした。

(2) 学校教育の取組に対する満足度

「外国語教育の充実」、「情報モラルやコンピュータ活用などの情報教育の推進」は、小中学校保護者ともに必要性を感じている割合は高いが、満足度は低い。

表5-3 「満足」（「とても満足である」＋「まあ満足である」）上位5項目（小中学生保護者）

| 項目 | 小学生保護者 | 項目 | 中学生保護者 |
|----------------------------------|--------|----------------------------------|--------|
| ふるさと浦安の歴史・文化への理解に関する教育の充実 | 79.2 | ふるさと浦安の歴史・文化への理解に関する教育の充実 | 74.4 |
| 学校図書館教育、読書活動の充実 | 74.6 | 防犯教育や交通安全教育の充実による、安全・安心な学校づくりの推進 | 74.0 |
| 学校の教育活動や運営状況の保護者や地域への発信の充実 | 72.3 | 学校図書館教育、読書活動の充実 | 71.5 |
| 防犯教育や交通安全教育の充実による、安全・安心な学校づくりの推進 | 72.2 | 就学前から義務教育9年間を見通した幼保小中連携教育の推進 | 71.4 |
| 防災教育の推進 | 70.5 | 学校の自己評価や学校関係者評価の実施・公表など学校評価の充実 | 69.9 |
| | | 学校の教育活動や運営状況の保護者や地域への発信の充実 | 69.9 |

小中学生の保護者が「満足」と回答とした割合が高い上位5項目のうち、4項目が共通した項目となっています。また、その4項目における割合の差は5.0ポイント以内となっており、小中学生の保護者では大きな差は見られませんでした。

表5-4 「満足」下位5項目（小中学生保護者）

| 項目 | 小学生保護者 | 項目 | 中学生保護者 |
|-------------------------------|--------|-----------------------------|--------|
| 児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てるキャリア教育の推進 | 44.4 | 家庭学習や自主研究など自主的な学習活動の奨励・支援 | 45.9 |
| 外国語教育の充実 | 47.1 | 外国語教育の充実 | 45.9 |
| 国際理解教育の推進 | 48.2 | 理数教育の推進 | 48.2 |
| 情報モラルやコンピュータ活用など情報教育の推進 | 48.3 | 教職員の事務軽減化による、児童生徒と向き合う時間の確保 | 52.3 |
| 家庭学習や自主研究など自主的な学習活動の奨励・支援 | 53.8 | 一人一人に応じたきめ細かい授業や少人数教育の推進 | 53.0 |
| | | 情報モラルやコンピュータ活用など情報教育の推進 | 53.0 |

小中学生の保護者が「満足」と回答とした割合が低い下位5項目のうち、3項目が共通した項目となっています。また、その3項目のうち「家庭学習や自主学習など自主的な学習活動の奨励・支援」の割合の差は7.9ポイントとなっています。その他2項目は、上位5項目と同様に差が5.0ポイント以内となっており、小中学校の保護者では大きな差は見られませんでした。

表5-1、表5-4を比較してみると、「外国語教育の充実」、「情報モラルやコンピュータ活用などの情報教育の推進」の2項目については、小中学生保護者とも必要であると感じているが、現在の取組に満足していないことがうかがえます。

6 浦安市の学校教育

(1) 子どもに身につけている能力や態度

小中学校教員はともに「いのちを大切にできる態度」、「運動する楽しさを知り、親しむ態度」、「人と協力して取り組む力」が身につけていると感じている。

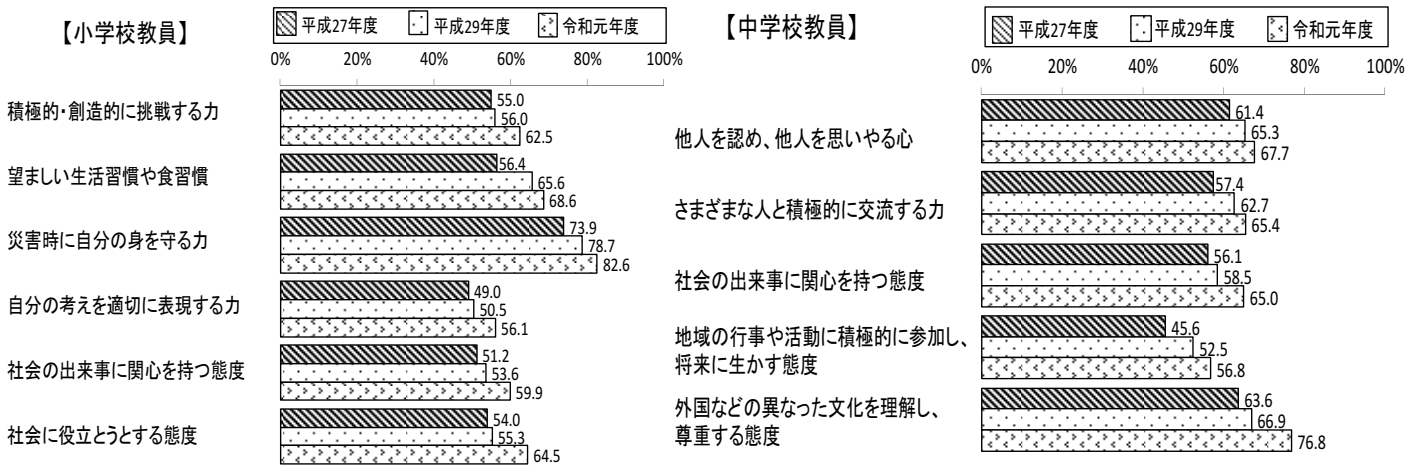
また、経年で比較すると、小学校教員では「社会に役立つとする態度」、中学校教員では「外国などの異なった文化を理解し、尊重する態度」の増加幅が最も大きくなっている。

表6-1 「身につけている」(「よく」+「まあ」)上位5項目(小中学校教員)

| 項目 | 小学校教員 | 項目 | 中学校教員 |
|------------------|-------|------------------------|-------|
| いのちを大切にできる態度 | 88.0 | 運動する楽しさを知り、親しむ態度 | 88.2 |
| 運動する楽しさを知り、親しむ態度 | 87.3 | いのちを大切にできる態度 | 87.7 |
| 人と協力して取り組む力 | 85.1 | 社会のルールを守って善悪を判断し、行動する力 | 81.8 |
| 自分を認め、自分を大切にできる心 | 82.9 | 人と協力して取り組む力 | 81.4 |
| 災害時に自分の身を守る力 | 82.6 | 犯罪や交通事故から身を守る力 | 80.9 |

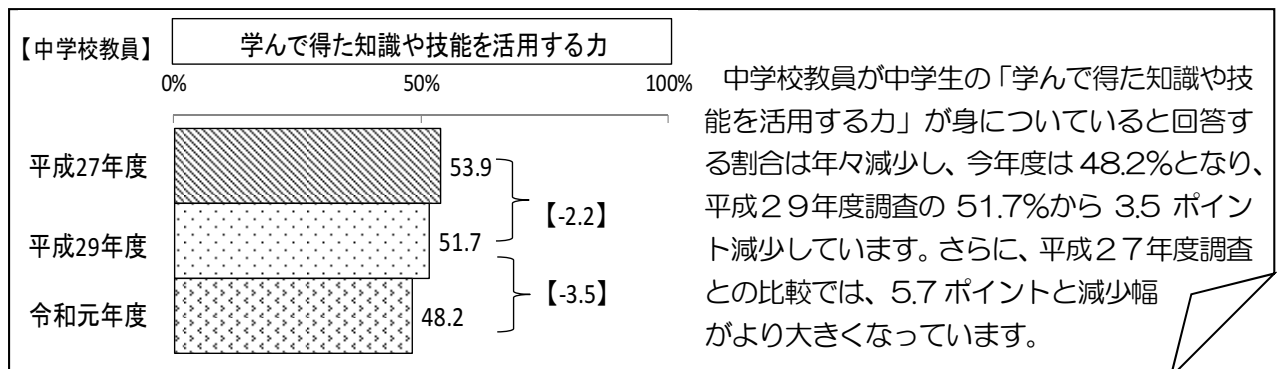
小中学校の教員が「身につけている」と回答とした割合が高い上位5項目のうち、3項目が共通した項目となっています。また、その3項目の割合は差が5.0ポイント以内となっており、小中学校の教員に大きな差は見られませんでした。

グラフ6-2 経年による「身につけている」の割合の増加幅が特に大きいもの(小中学校教員)



上記グラフのすべての項目で、平成27年度調査から継続して増加しています。平成29年度調査から今年度調査までの増加幅が特に大きい項目は、小学校教員では「社会に役立つとする態度」、中学校教員では「外国などの異なった文化を理解し、尊重する態度」の増加幅が最も大きくなっています。

グラフ6-3 経年による「身につけている」の割合の減少幅が特に大きいもの



(2) 授業や学習指導において心がけていること

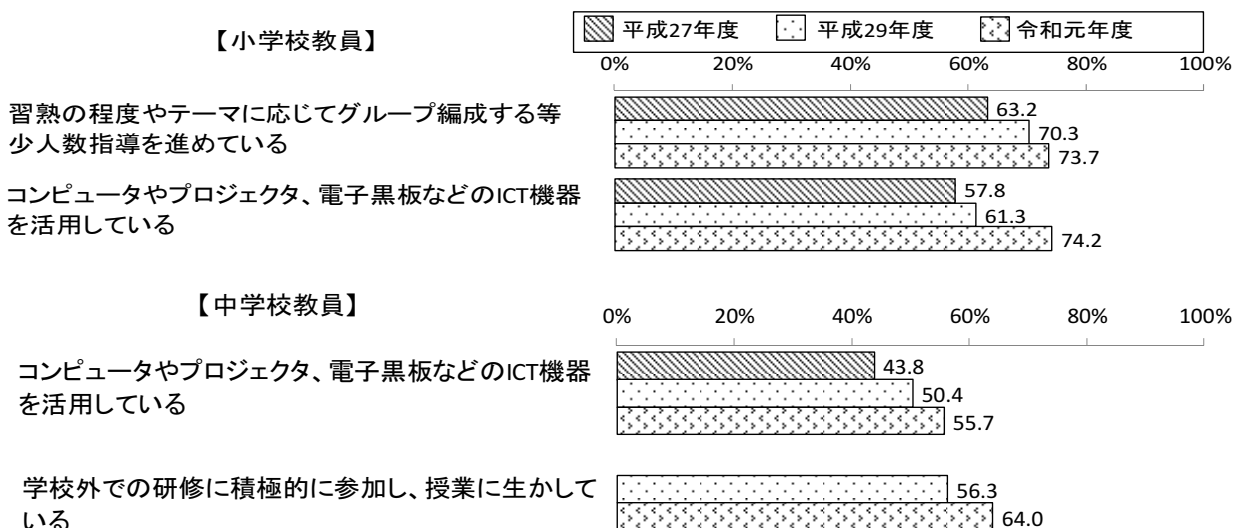
教員が心がけている項目は、上位5項目中4項目が小中学校間で共通の項目となった。
また、小中学校ともにICT機器を積極的に活用する割合が年々増加傾向となっている。

表6-4 「心がけている」(「とても心がけている」+「まあ心がけている」) 上位5位 (小中学校教員)

| 項目 | 小学校教員 | 項目 | 中学校教員 |
|--|-------|--|-------|
| 授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れている | 100.0 | 授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れている | 96.9 |
| 児童生徒の発表に対して、うなずきや相づちで応えたり、間違っただ意見を大切にしたりしている | 99.4 | 児童生徒の発表に対して、うなずきや相づちで応えたり、間違っただ意見を大切にしたりしている | 96.9 |
| 児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている | 97.8 | 児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている | 95.4 |
| 児童生徒一人一人の良い点や可能性を見つけ、児童生徒に伝えるなど積極的に評価している | 97.2 | 学習規律を徹底している | 92.7 |
| 児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている | 96.1 | 児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている | 88.1 |

「児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている」では、中学校教員より、小学校教員の方が8.0ポイント高く、思考の深まりについて意識が高いことがわかります。

グラフ6-5 経年による「心がけている」の割合の増加幅が特に大きいもの(小中学校教員)



小中学校教員の回答を経年で見ると、小中学生ともに「コンピュータやプロジェクタ、電子黒板などのICT機器を活用している」の割合が平成27年度調査から継続して増加しています。

グラフ6-6 経年による「心がけている」の割合の減少幅が特に大きいもの

